

30年12月分 合板工場の荷動き・価格先行き動向調査 1

1. 調査実施期間 平成30年 12月1日～ 30年12月10日

2. 調査実施方法

全国の合板工場-1に対し、アンケート調査票を送受することにより実施した。
12月分の回答企業数は5社である。

3. 判断指数の算出方法

各調査項目について以下の方法でウェイト・ディフュージョン・インデックスを算出した。

Weight.D.I.(ウェイト・ディフュージョン・インデックス)={(「増加」の評価を行った回答の割合)×2+(「やや増加」の評価を行った回答の割合)-(「減少」の評価を行った回答の割合)×2-(「やや減少」の評価を行った回答の割合)}÷2
したがって、この割合がゼロの場合はその増加と減少が等しいことを示し、プラスになるほど増加が多く、逆にマイナスになるほど減少が多いことを示す。

4. 調査結果の概要

(1) 国産原木入荷動向 Weight. D. I.

品目		30/12月	31/1月	2月
入荷動向	スギ	12.5	△ 12.5	△ 12.5
	ヒノキ	0.0	0.0	0.0
	カラマツ	0.0	0.0	12.5
	トドマツ	△ 33.3	0.0	16.7
消費動向	スギ	△ 37.5	△ 37.5	△ 12.5
	ヒノキ	△ 50.0	△ 33.3	0.0
	カラマツ	25.0	12.5	12.5
	トドマツ	△ 33.3	0.0	0.0
在庫動向	スギ	12.5	0.0	0.0
	ヒノキ	0.0	0.0	0.0
	カラマツ	△ 12.5	0.0	0.0
	トドマツ	△ 50.0	△ 16.7	△ 16.7

・スギ国産原木の入荷動向は12月の増加から1月、2月は減少に。ヒノキは3カ月連続横ばい推移。カラマツは12月、1月の横ばいから2月は増加に。トドマツは12月の減少から1月は横ばい、2月は増加に。

・スギ国産原木の消費動向は3カ月連続減少。ヒノキは12月、1月の減少から2月は横ばいに。カラマツは3カ月連続増加。トドマツは12月の減少から1月、2月は横ばいに。

・スギ国産原木の在庫動向は12月の増加から1月、2月は横ばいに。ヒノキは3カ月連続横ばい推移。カラマツは12月の減少から1月、2月は横ばいに。トドマツは3カ月連続減少。

(2) 合板用原木購入価格動向 Weight. D. I.

品目	30/12月	31/1月	2月
スギ	25.0	12.5	0.0
ヒノキ	33.3	16.7	16.7
カラマツ	12.5	25.0	12.5
米マツ	0.0	0.0	50.0
北洋カラマツ	0.0	0.0	0.0
その他	25.0	25.0	25.0

・合板用国産原木の購入価格動向はスギ、ヒノキ、カラマツ、その他（トドマツ）とも強保合。

・外材は米マツ保合、北洋カラマツは横ばい推移。

モニターからのコメント

(原木荷動き)

・先月から当月にかけてスギは一時的に入荷が急増しているが、降雪が始まると減っていく見込み。トドマツは船の運航状況に左右されるため先行きは不透明。消費動向はスギは乾燥難により、またトドマツは入荷減により減少。当月スギ在庫は減。スギ、トドマツは入荷分を使いきる形なので末在庫は減らない。
・トドマツの入荷が厳しく船の手配も難。消費は年末・年始の休みがあり減少。
・スギ、ヒノキ丸太大幅に減少。スギ、ヒノキ入荷減少によりカラマツ増加。在庫はスギ、ヒノキ日々ゼロ状態。
・ヒノキの入荷量を増やし、在庫を増やす。年末年始は消費が減る。天候良く伐採は順調である。スギ、ヒノキともに在庫は増えていく。

(原木価格)

・スギ、カラマツとも横ばい。ヒノキ、外材は購入予定なし。
・カラマツ原木価格上昇傾向。
・全体に価格上昇、地域によってはかなり上昇。カラマツ、トドマツは今後さらに上昇か。
・今月からスギ、ヒノキともに購入価格を上げた。特にヒノキは在庫を増やしていく。

30年12月分 合板工場の荷動き・価格先行き動向調査 2

4. 調査結果の概要

(1) 生産動向 Weight. D. I.

品目		30/12月	31/1月	2月
生産動向	構造用(9mm)	0.0	△ 25.0	12.5
	〃 (12mm)	△ 20.0	△ 25.0	12.5
	〃 (15mm)	△ 30.0	△ 20.0	10.0
	〃 (24mm)	△ 40.0	△ 20.0	10.0
	〃 (28mm)	△ 30.0	△ 20.0	10.0
出荷動向	構造用(9mm)	37.5	25.0	0.0
	〃 (12mm)	40.0	20.0	0.0
	〃 (15mm)	10.0	10.0	0.0
	〃 (24mm)	10.0	10.0	0.0
	〃 (28mm)	10.0	10.0	0.0
在庫動向	構造用(9mm)	△ 25.0	△ 25.0	△ 12.5
	〃 (12mm)	△ 30.0	△ 10.0	△ 10.0
	〃 (15mm)	△ 10.0	△ 10.0	△ 10.0
	〃 (24mm)	△ 20.0	△ 10.0	△ 10.0
	〃 (28mm)	△ 30.0	△ 20.0	△ 20.0

・合板工場の生産動向は9mmは12月の横ばいから1月は減少、2月は増加に。その他の品目は12月、1月の減少から2月は増加に。

・出荷動向は全ての品目とも12月、1月の増加から2月は横ばいに。

・在庫動向は全ての品目とも3カ月連続減少。

(2) 構造用合板出荷価格動向 Weight. D. I.

品目	30/12月	31/1月	2月
構造用(9mm)	0.0	0.0	0.0
〃 (12mm)	0.0	0.0	0.0
〃 (15mm)	0.0	0.0	0.0
〃 (24mm)	0.0	0.0	0.0
〃 (28mm)	0.0	0.0	0.0

・出荷価格動向は全ての品目で横ばい。

モニターからのコメント

(構造用合板の荷動き)

- ・足の速い9mm、12mmを多く生産する予定。
- ・28mmは生産増。出荷は24mmと28mmの増加が目立つ。在庫は24mm、28mmが減少傾向。
- ・生産動向は年末年始の休み及び働き方改革に基づき自然減（人手の問題）。出荷動向は、引き合い多く年明けに引きずりそう。在庫は月を追うごとに減少。
- ・年末年始の設備メンテナンスにより生産減となる。納期の問合せが増え12mmネダノンの引合いが強くなってきた。生産状況に合わせた出荷となる。在庫は低水準のまま推移する。

(構造用合板の価格)

- ・年明けの荷動き次第で来年は弱含みの予想。
- ・ほぼ横ばい。
- ・原木、接着剤、運賃等がアップ。更に上昇傾向なので価格転嫁しないと厳しい状況。
- ・出荷価格は横ばい。原木価格、輸送コスト次第では価格見直しもあり得る。